一般演題Ⅱ

［現　況］

O-06 当院におけるPTEGの現況 ～導入12年目をむかえて～

○高橋 美香子
鶴岡協立病院 内科

当院のPTEGは2011年度までに総症例数89例（93回）となり栄養投与ルートとして一定の役割を果たしている。導入より12年を機に現況をまとめてみた。平均年齢は81.0歳で栄養目的の造設が96.6%と大半であった。男性比率は54%であった。PTEG選択の理由は、PEG不能が80例で最も多く、PEG先行後トラブルによってPTEGへ切り替えたものが9例みられた。その内訳は、胃瘻もれによる胃瘻孔閉鎖後4例、横行結腸誤穿刺後4例、胃瘻カテーテル留置失敗後1例であった。再造設症例は5例で、理由は気管貫通後が2例、自己抜去後瘻孔閉鎖が2例、栄養安定しPTEG抜去後の再造設が1例であった。経過中26.8%が自己抜去していた。PTEG自己抜去の特徴として、同じ症例が繰り返す（最高頻度13ヶ月中10回）、介護の手薄な休日や夜間や早朝に多い、時に瘻孔確保困難、自己抜去に伴う重篤なトラブルの存在などがみられた。

O-07 PTEG の原点に立ち返って

○野坂 仁愛、大井 健太郎、福田 健治、山根 祥晃、豊田 暢彦
山陰労災病院 外科

1999年にPTEGを導入以来、現在までに100例を超える症例にPTEGを施行してしてきた。適応は腹膜播種によるイレウス、胃切除後のためPEGが不能な症例、PEGの適応基準から外れる（ALBの低値）症例、食道がん術後の症例など、様々に渡っている。逆にPTEGはPEG不能例にでも適応があるという点が大きなメリットである。

ただ、今回はPTEGの原点に立ち返り、消化器癌の腹膜播種症例で施行したPTEG2例に対して検討してみた。

O-08 血液透析患者に対するPTEG造設経験

○福本 和生
医療法人 島津会 幡多病院 外科・透析科

【目的】血液透析患者にPTEG造設の有用性を検討した。

【方法】当院および関連施設の内、PTEG造設患者について、造設時・術後合併症を検討し、留置期間・患者経過などをPEG患者と比較した。

【結果】PTEG患者14名（男12、女2）、平均年齢75.7歳、平均留置期間296.2日（うち死亡7名は76.7歳、211.3日）。PEG患者22名（男12、女10）、平均年齢76.0歳、平均留置期間407.5日（うち死亡16名は78.6歳、299.9日）であった。造設時合併症は、食道損傷、縦隔炎、皮下感染、デバイストラブル。造設後合併症は唾液瘻皮膚炎・自己抜去・食道瘻孔狭窄など。

【考察】血液透析患者の場合、組織の脆弱性・易出血性のためにPEGよりはPTEGの方が適しているであろう。ただし副甲状腺手術後やPEIT後症例には注意する必要がある。

【結論】血液透析患者のPTEG造設適応症例が今後増えてくるであろう。透析専門施設の医療従事者・職員・患者家族への啓蒙に努める必要がある。

O-09 PTEGにより腸管減圧を図った癌性腹膜炎患者25例の検討

○村上 坤太郎、荒木 理、津田 朋広、佐々木 綾香、安達 神奈、
島田 友香里、林 幹人、井谷 智尚、三村 純
西神戸医療センター 消化器内科

【背景】癌性腹膜炎による腸閉塞では腸管減圧が必要であるが、経鼻チューブによる減圧は患者のQOLを著しく損なう。PTEGは、胃癌の術後や大量腹水症例などのPEG困難例でも実施可能で、腸管減圧に有用な方法である。

【対象及び方法】2001年1月から2011年12月までの間に当院で癌性腹膜炎による消化管減圧目的にPTEGを実施した25例について、年齢、原疾患、化学療法実施の有無、在宅への移行率、その場合の主な介護者及びその職業、転帰について検討した。

【結果】男女比は1：1、平均年齢は61.6歳（48～86歳）で、原疾患は胃癌13例、卵巣癌3例、大腸癌3例、膵癌2例、虫垂癌2例、胆嚢癌1例、脂肪肉腫1例、化学療法は3例で実施された。7例が在宅療養へ移行し、その内の3例が自宅で亡くなられた。主な介護者は配偶者であり、介護者の職業が無職もしくは自営業だと在宅療養に移行しやすい傾向が見られた。

0-10 静岡がんセンターにおけるPTEGの現状

○別宮 絵美真、新槇 剛、森口 理久、朝倉 弘郁、遠藤 正浩
静岡県立静岡がんセンター 画像診断科

【目的】開院からのPTEG施行例および臨床試験の状況についてまとめた。
【対象】2002年9月から2011年12月に施行したPTEG 144症例147手技で、背景疾患、留置目的、合併症等につき検討した。
【結果】年齢中央値62歳、男性85名女性59名。背景疾患は胃癌が最も多かった。留置目的は栄養目的27手技、ドレナージ目的120手技であり、ドレナージ群で胃管等の前治療を必要とした症例は105例89.7%だった。PTEG挿入成功率は98.0%であり、PTEG挿入と明らかに関連のある合併症に術後出血、食道気管瘻、縦隔炎を認めた。第Ⅱ相臨床試験期間中の減圧目的施行例は22例あり、登録数は12例54.5%だった。また第Ⅲ相試験では減圧目的施行例は18例あるが、登録数は2例であった。
【結語】病態から栄養目的よりも減圧目的が多く、前治療を行っていた症例が多かった。病状が悪化している状態での臨床試験の参加獲得は困難であることから、ランダム化臨床試験を行う際には早期からの患者獲得が必要と考える。